

増加が続く梅毒

県感染症情報センター

きき 感染症を な 知る

◆51◆

梅毒は古くからある感染症なので、「昔の病気」と思っておられる方も多いかもしれません。また、性感染症の一つであり、性的接触以外の感染経路がほほないため、どうとう日常を過ごすかにより、感染する可能性が全くない方もいます。そのため、あまり身近に感じられない疾患なのかもしれません。

しかし、奈良県でも平成26年に急増して以降、増加が続いており、今年には既に昨年より多くなっています。今月は梅毒の疫学についてお話しします。

▽梅毒とは
梅毒とは、性行為等により感染する、性病、性感染症です。特徴的な赤

い発疹が楊梅(ヤマモモ)に似ていることから梅毒と呼ばれます。梅干しの梅とは、全く関係がありません。

性交する男性(men who have sex with men(MSM))の間で感染が広がり、さらにここ数年では、男女ともに患者の増加が続いています。

▽病原体と症状
梅毒の病原体は「梅毒トレポネーマ」という細菌で、伸びたバネのよう

原体に抵抗するものではなく、治療しなければ病原体が消滅することはありません。また、治療して回復した後も、予防しない限り何度も感染します。そのため、ワクチンはありません。

感染後3〜6週間程度の潜伏期があり、その後の月日の経過とともにいろいろな症状が出現します。またその間、症状がない時期があり、治ったかのように思えることがあります。

▽発生動向
全国では平成25年に急増後、徐々に増加が続いています。奈良県では同

26年から増加が続いており、男女とも特に20〜30歳代の増加が著しい状況です。(グラフを参照)

▽予防と治療
梅毒の予防としては、感染者との性行為や疑似性行為を避けることが基本です。コンドームの使用は完全でないもの、断るまでは、控えます。周囲で感染の可能性がある方(パートナー等)と一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。(県感染症情報センター)

ならせん状をしています。一般的な感染症の場合には、発熱などの症状の後しばらくすると軽快し回復します。これは病原体が侵入すると、体内ではその病原体に抵抗する力(抗体)を作って攻撃し、病原体が消滅するためです。

しかし梅毒の抗体は病

による感染がほとんどです。菌を排出している患者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為により感染します。

粘膜とは性器の粘膜だけでなく、口腔粘膜や直腸粘膜からも感染します。極めてまれには、傷のある手指が多量の排出菌に汚染された物品に接触して感染することもあるようです。

妊娠中に感染すると、胎盤を通して胎児にも感染し(先天梅毒)、死産や新生児死亡のほか、生まれた後も、生後すぐから学童期にかけて、障害が現れることがあります。

▽発生動向
全国では平成25年に急増後、徐々に増加が続いています。奈良県では同

26年から増加が続いており、男女とも特に20〜30歳代の増加が著しい状況です。(グラフを参照)

▽予防と治療
梅毒の予防としては、感染者との性行為や疑似性行為を避けることが基本です。コンドームの使用は完全でないもの、断るまでは、控えます。周囲で感染の可能性がある方(パートナー等)と一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。(県感染症情報センター)

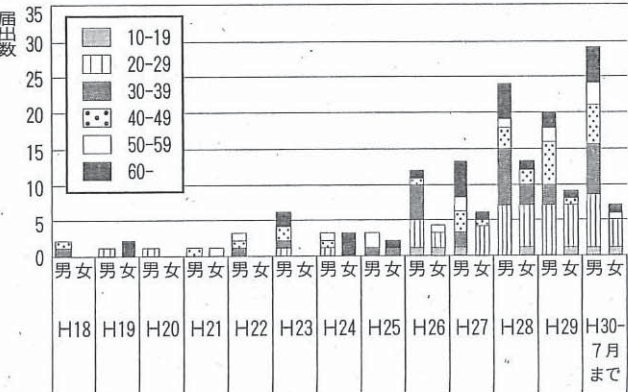
若い世代の増加顕著 自然治癒なく要治療

コロナプスがアメリカ大陸からヨーロッパを持ち帰り、世界に広がったとされています。ペニン

リンによる治療が確立されるまでは、非常に多くの死者を出した病気で、第二次世界大戦後、患者数は大幅に減少していました。

しかし近年になって、先進国を中心に、男性と

は、処方された薬は確実に飲みましょう。性交渉など感染拡大につながる行為は、医師が安全と判断するまでは、控えます。周囲で感染の可能性がある方(パートナー等)と一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。(県感染症情報センター)



奈良県の年別梅毒届出状況